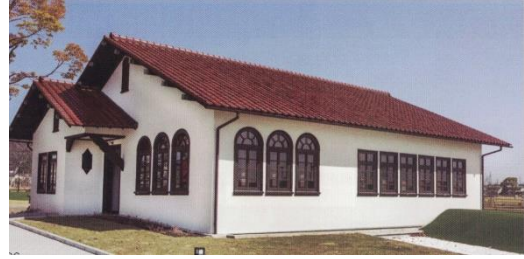


6-2. 環濠集落部の旧京大農場別館・加工室

○別館：昭和7年(1932年)木造平屋建て 瓦葺き

中央の廊下を挟んで諸室が並ぶ単純な平面構成で、本館の東側に建ち、調和のとれた景観を構成しています。花台をもつ北側の2室は一段高く畳敷き、南側の実習室窓際には顕微鏡観察用のカウンターが備えられていました。格子天井や金物に幾何学調の意匠をほどこしたスタイリッシュな建物です。



現在展示館：

現在は展示室として、南側は弥生時代の生活用具を体感できるハンズオン展示のギャラリーです。



階段を降りると、真下をとおり弥生時代の環濠から実際の地層を剥ぎとって展示しています。底に立って2500年の時の厚みを感じることが出来ます。

北側の部屋では、弥生時代のムラの始まりや当時の暮らし、発掘調査で見つかった弥生人の足跡の謎解きなどを安満遺跡の成り立ちを紹介する映像シアターで上映しています。



北側は安満遺跡の成り立ちを紹介するシャッター

○加工室：昭和8年(1933年)建築、同10年増築 木造平屋建て鉄板葺き

最初に南側の加工場が建てられ、のちに北側へ研究室や収納室が増築されました。加工場には、大釜をはじめ、さまざまな機械類を備えてジャムやシロップの製造、柿の渋抜きなどが行われました。



外観はモルタル腰壁をめぐらせ、白壁・赤屋根が本館と通じる意匠です。内部の床はコンクリート土間、研究室と製品庫は板張りでした。鉄骨で補強された木造トラスの小屋組みは、明色に塗装されてモダンな軽快さを感じさせ、背の高い縦長窓を並べた開放的なコテージ風の建物です。

現在は体験館として、北側は土器づくりなど歴史体験室、南側は多目的スペース。